

室生寺
十一面観音像
国宝

この十一面観音像は高さが 196.2 センチメートルあり、カヤの一木造りで 9 世紀につくられた。平安時代（794～1185 年）の初期の宗教彫刻の職人の技術の高さを示す好例である。複雑な装飾がほどこされた観音の台座は、八重咲きの蓮の花を表現している。台座は平安時代の作と考えられているが、像が完成した後に付け加えられたものである細かな花の装飾のついた光り輝く光背に包まれた。

この慈悲の菩薩・十一面観音の像は、優しい、女性的な表情と、衣や持物の複雑に特筆すべきものがある。観音は人々を病気から守り、食べ物や富を確保する手助けをすると考えられている。11 の顔は様々な表情をしているが、一番大きな顔は慈悲と静けさを醸し出している。11 個の顔の意味には諸説あるが、悟りに至るまでの道筋の 10 の段階を表しており、11 番目の一番上についている顔が悟りを開いた状態を示している、という解釈もそのひとつである。この像は 2020 年 3 月から宝物殿へ安置される。

十一面観音の右の方の、より大きな像の中央に安置されるのが、釈迦如来立像である。